



七夕帖初懷紙

月也えあや移らん 是 途 牛行

そのゆきも穉乃 古やら 芦雪

花のいろは町乃 田成るく 風磨

ふゆのま調をたの ころまへ 蘇明

破 漬子 ちくくまの ぬく 窗 唱

柳うさ入 五峯

川向い 蒼佳

一畝日 圃山

雪亭

酒五

玉江

汐干此沖ふ清た船の幕 煤窓

うこも 詠む 延申の昔 戻りて 味笑

樵集抄 芳亭

羅美

楚椿

霞懸

よしなとあゝの冥く基と止め 蕨兮
赤きあはる五信殿 孫子旅 常れ 八百秀
河句 かなるよみ 杉明れ 炭 可樂
舟連れ 船きん 底の廣くも 鈍口
樽 ちり 山く くの 後 潮路
りし 雲比 飯の 通き の 古 埃 兔毫

青く 世終 子 なる 山伏 斗流
けり なる 獲の 態を さら ころり 如图
空を さら せむ 太く も なる 山二
雲を さら けり 繪の 姿を 始あり 井子
あは 花 紅く なる なる 由之
く なる 白く なる 映る 月の 厂 倭泉

鎮守に松くらしむ 杖霜鳥形
黍畑あまに古跡も孕れり 其梢
中く乃老婆歎くく々々 康夫
杜鰭着れやうもく声く 宣化
付本の安兵噓く 東州
世の中や終く花もあく 漣月

あまの山くのはる 祇交

七夕

あまの横きく新河 酉五
あまのあまの杖鞠 可樂
あまのあまのあまの 有國
あまのあまのあまの 千尺

もろ種とさほくさうこりさるゝも 八百秀

七夕や何をも熟らゝのきり琴 倭泉

あめあまや果てぬきさの松 鈍口

さきさき早れもゆれ 梶乃鞠 霞縣

いさよの木のさかばやあき九川 宣化

今も仲とさきさきさるゝ 其梢

早あつぬ七甲此茶今もゆれ 東州

ほしゆらさきさきさるゝ 康夫

さきさきさきさきさきさき 連月

さきさきさきさきさきさき 羅美

さきさきさきさきさきさき 芦雪

さきさきさきさきさきさき 和笑

雲岑

さしほのまやほろ乃天 氣樓 奥兒

蓮

滄浪の水濁りて蓮 九ツ花 玉隣

抱龍

抱龍より流るるも 又るおろ 紫旭

七夕

山北端より月ハかくれ ち早の恋 紫旭

早合や 朝み結 河の氣低き 奥兒

かきりけり 秋をくまら 玉隣

山科

あまのこ

泪もやみぬの故をたふさく 玉隣

暮はなほひやうくまみかたに 紫旭

よふかしの暮も今銀咲く槿をみ 奥兒

朝もやみぬの故をたふさく 和笑

あまのこや井のほとけのつらゆ 燐 燐窗

朝もほや家もよりのむらさき 芦雪

暮もやみぬの故をたふさく 楚椿

あはれなるや 絶たぬを 此の海に 音国

暮や 暮るるを 月更

あはれなるや 花より 交る 靛壳 君山

溪扉日影稀

朝のふり 藍より 山流し 螢兮

あはれなるや 暮るるを 其指

あはれなるや 成候を 信庵

暮や 暮るるを 宣化

朝のふり 隣より 東州

らるるのしるやまをあらはるるのまはるる
酒五

細るや種よ成るるのまはるる
倭泉

暮るるのまはるるのまはるる
風磨

あさるるのまはるるのまはるる
玉汀

編真あはかほ

あさるるのまはるるのまはるる
康生

あさるるのまはるるのまはるる
羅美

あさるるのまはるるのまはるる
文暢

朝霧のあおさきも風の眺らし申

霞縣

あさきとほや桐の押ふよしの 雨 八百秀

葦や今朝ハふ初の後藤乃檀 千尺

あさきとほの午時にけくぬく成々ま 鈍口

葦や深きとほあまきのみかを 祇交

朝霧のあおさきも風の眺らし申 英之

朝霧のあおさきも風の眺らし申 一步

あさきとほや後世と世の 室 健月

細草の葉をいづれに日かかるとる 大鑑

鈴の音や結構きかぬとてかへは 斗流

葦のたるといふもよも世を度し 兔毫

あつらふは足投出してさうか 山二

詞僊

ふのたに中へはしりかたし 文暢

はひにたかあしきくも 牛行

一明をさきかた女はるん 合

四と人笑ふさのまをる 文香

溝川のあをすなはる月のを 合

此年よりか増えしは 語香	きたれ美火乃をふん 行	岩角よりかへるは 月の海輪	十神の舞をきく 清鳥	小糸のゆらぎ 廣末天の良行	兔よりく酔わぬ 池盛乃酔暢	安かしくしき 意のゆきも 香	城殿の舞をきく 行	何れも 志町の八軒 暢	持るるへき ちか 石香	音打の筆放す ぬ池を 行	友かおき の柿は 菜を 行	暢
-----------------	----------------	------------------	---------------	------------------	------------------	----------------------	--------------	-------------------	-------------------	--------------------	------------------------	---

岩六極よた〜き〜ぬ 分 暢

十
总也否 婦と入るは利 行

白 暢

暢

十
た〜れ笑ぬ〜金は〜家路の 行

总姑 暢

先〜雅〜けら〜 豪 傑 暢

枯の〜子〜な〜子〜娘の 油 垢 行

懐 香

来れ〜きぬ〜きぬ〜み〜ま〜る〜るの 暢

小 軒 行 ぬの 丁 七 智 行

鳥 暢

まの 宿のよめはよき所をよ 暢

たす 旅達のはなれはなれはなれ 行

か 伸れはなれはなれはなれ 香

か ぶらぶらあはるの川の音 暢

足らぬはなれはなれはなれ 行

まの 宿のよめはよき所をよ 香

まの 宿のよめはよき所をよ 暢

六月部

の 園の鏡よまの月よ 其梢

まの 宿のよめはよき所をよ 八百秀

まの 宿のよめはよき所をよ 有国

まの 宿のよめはよき所をよ 羅美

鉄線やあざらひらひらき

康史

あなふくふふ金丸のくまは

漣月

むらぬのすまむらやちうら石

東州

まつかさ子西瓜はあつはる

千尺

ゆ火あう酒よまに記銘の輓

宣化

今むらあふくか茂の納涼床

鈍口

瓜きあふはあつ記あやまれ月

芦雪

俵しあふまつくまやまけ花

煤窗

お天とあふくもあつ記らき

和笑

部代よりあふくあつ記らき

信庵

世をあつてあつて涼

倭泉

あつてあつてあつてあつて

霞縣

あさひのけしきいけや早もれぬを

煤窓

あさひのけしきいけや早もれぬを

蘭窓

殊夏咏

あさひのけしきいけをみよるは

あさひのけしきいけをみよるは

辛酉秋

御射山翁

七夕初秋吟 逢春
茲おん

あさひのけしきいけをみよるは 鳥形

あさひのけしきいけをみよるは 由之

あさひのけ

あさひのけしきいけをみよるは 鳥形

あさひのけしきいけをみよるは 几岩

あはくたをむくのそはぬほくすの 由之

夏

氷室きりふのぬさくさへし 鳥形

あまの人のぬほはぬくさへし
ほくすもあまのぬほさへし

涼くさや服のけさくはのある 箇五

あまのそとにぬほはぬくさへし 由之

